

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5400m付近で-24℃以下の寒気を伴うトラフに対応した千島の東の低気圧が前線を伴って東進。前線は千島の東から北海道付近の南を通して東北地方付近へのびている。北海道地方では前線近傍で強い雨を解析。
- ② 南西諸島付近で形成されたシアーラインは不明瞭化しつつあり、南西諸島付近の海上で激しい雨を解析。
- ③ 台風第26号がフィリピンの東を西北西進。
- ④ 中国東北区の高気圧が東南東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、25日の朝には日本の東へ進む。1項④の中国東北区の高気圧は、25日夜にかけて日本海に移動する。25日夜までに日本の東で高気圧が発生、その後、日本のはるか東へ移動し、北日本は帯状高気圧に覆われる。
- ② 1項③の台風第26号は25日夜までに沖縄の南へ進む。500hPa 5820m付近の強風軸に対応した前線が25日朝までに華中で発生し、26日朝にかけて伊豆諸島付近へのびる。前線に向かう下層暖湿気、高気圧後面や台風周辺から流れ込む下層暖湿気、上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。沖縄地方と北～東日本では25日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 26日は、2項②の台風第26号が発達しながら沖縄の南を北上し、その後、沖縄地方に強い勢力で接近するおそれがある。
- ④ 2項②の華中からのびる前線は、26日夜にかけて伊豆諸島付近で停滞。また、低気圧が26日から27日にかけて朝鮮半島付近から日本海北部へ進む。前線に向かう下層暖湿気や台風周辺から流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる可能性がある。北～西日本と沖縄地方では26日～27日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。台風第26号を波源とするうねりの影響で、波が高くなる所がある。沖縄地方では26日～27日にかけて、うねりを伴う高波に注意。
- ⑤ 沿海州から日本海北部へ進む低気圧の影響で強い風が吹く可能性がある。北海道地方では26日は、強風に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の前線の位置や降水の広がりなどの予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：沖縄3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。